



このよならわたしの

メイドさん

TOKIWA YUTAKA PRESENTS
ときわゆたか

RAKURAKU SHUPPAN

The Last Violence, Immoralities and Forbidden Idea.

We're Neo Erotica Evolution, "CYBERIA".

© TOKIWA YUTAKA



おちあ...ミ

この私^{ちんほ}自身も

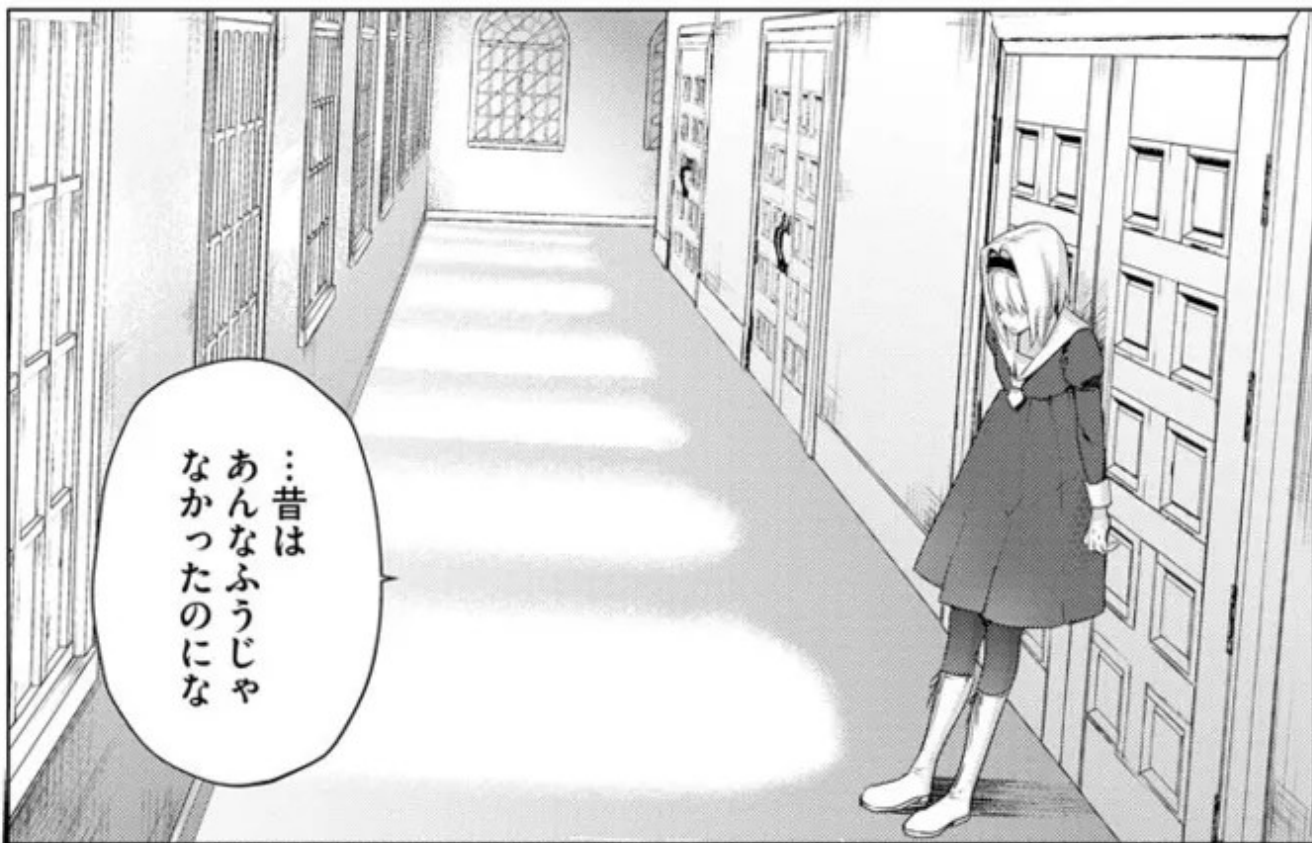
この家の
何もかも







…はあい♡



…昔は
あんなふうじゃ
なかったのにな

お嬢様！

どうして
なんだろう



何もかもが
輝かしかった
幼年時代



お嬢様
外は冷えます

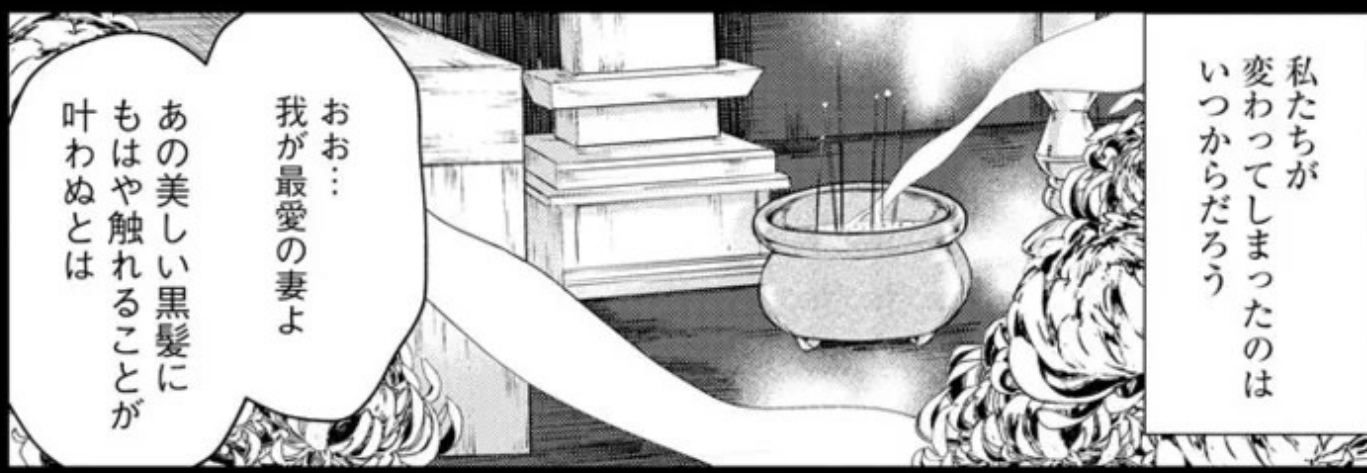
どうぞ
シヨールを



ええ

ありがとう
蒼衣

あのとき
蒼衣は確かに
男の子だった



私たちが
変わってしまったのは
いつからだろう

おお…
我が最愛の妻よ

あの美しい黒髪に
もはや触れることが
叶わぬとは



蒼衣…？



お待たせしました
旦那様

これからは
メイドとして
お仕えさせて
いただきますわね

おお…蒼衣
よく似合っ
ているぞ

まるで妻の
生き写しだ

どうして
なんだろう

ただ
何かが決定的に
変わってしまった
ことだけはわかった

お父様の部屋

なんの音
だろう

あ…



蒼衣が

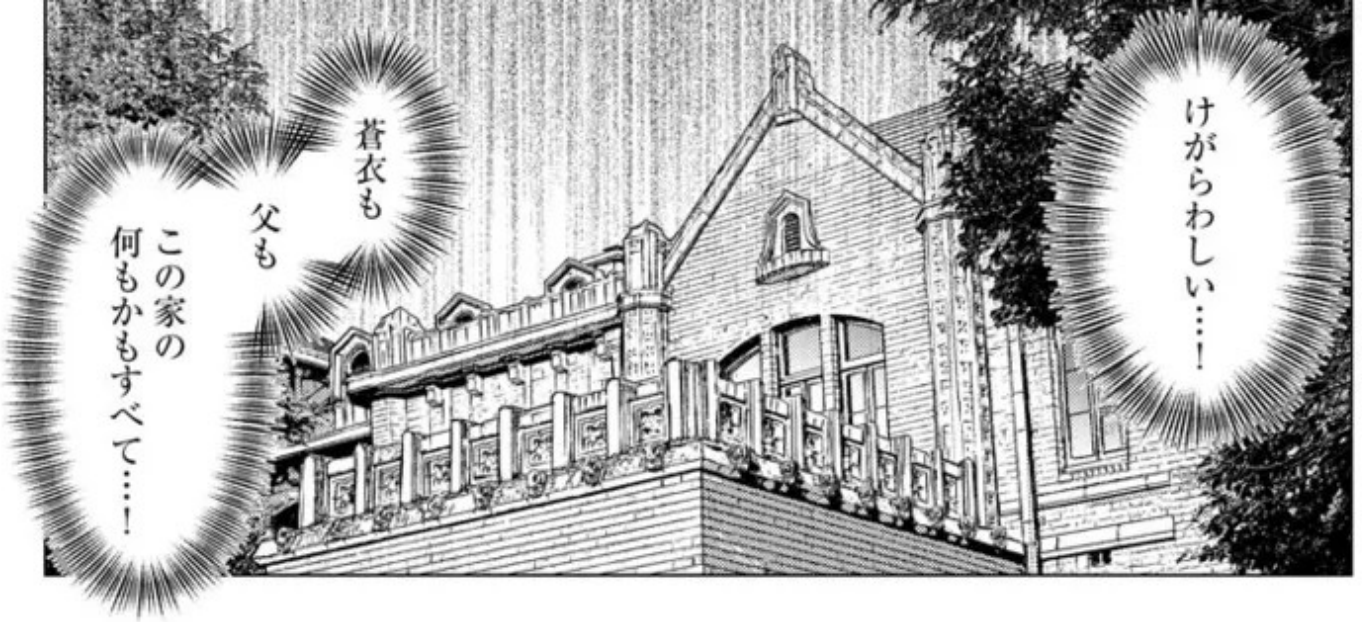
あんな
高い声で

あんな欲に蕩けた
目をするなんて
知らなかった

目が

合った気がした





けがらわしい…!

蒼衣も

父も

この家の
何もかもすべて…!



男のなりそこないが
なれなれしく
しないで
ちょうだい

けがらわしい



んっ

はあ

はあ

なんて
けがらわしいの…!

蒼衣のあの目が

はあ

ずっと
離れない

はあ

はあ

はあ

はあ

もう昔のようには
戻れないん
だろうか

お嬢様ったら

メイドの私にも
着替えの世話を
させてください
ませんのね

お男のメイドなんか
やらせるわけが
ないでしょう…!

ま…♡
色気づいて
らっしゃいますのね

オカマに裸を
見られたって女同士と
変わりませんわよ

や…
おやめなさい…っ
このオカマ…っ!

昔みたいに
仲良く
しましょう♡

んっ…!



こんな恥ずかしいところ……!!
蒼衣にだけは見られなくなかったのに……

ふっ



ああ……!!

まあ……



お嬢様ったら
勃起してこの程度
ですの……?

私の方が
大きいんじゃない
かって……?



まさか
私のって
小さいの……!?



なんですって……!!

そんなこと……
思っても
みなかったけど



あっ……!!

うふふ……



あくらはら♡
まさか気高く美しい
お嬢様が私のような
カマホモ野郎にも劣る
雑魚ちんぽとは…♡

オドロキ
ももの木
ですわあ♡

く…っ



ちやんちやら
おかしいですわ♡♡



こんなオモチャのような
ちんぽで人をオカマ
呼ばわりしていたなんて♡



破廉恥な…!!
口の利き方を
弁えなさい…っ

うふふ…
親子でも
似ても似つきま
せんかね



あら…♡
お嬢様ったら
わかってるくせに…♡



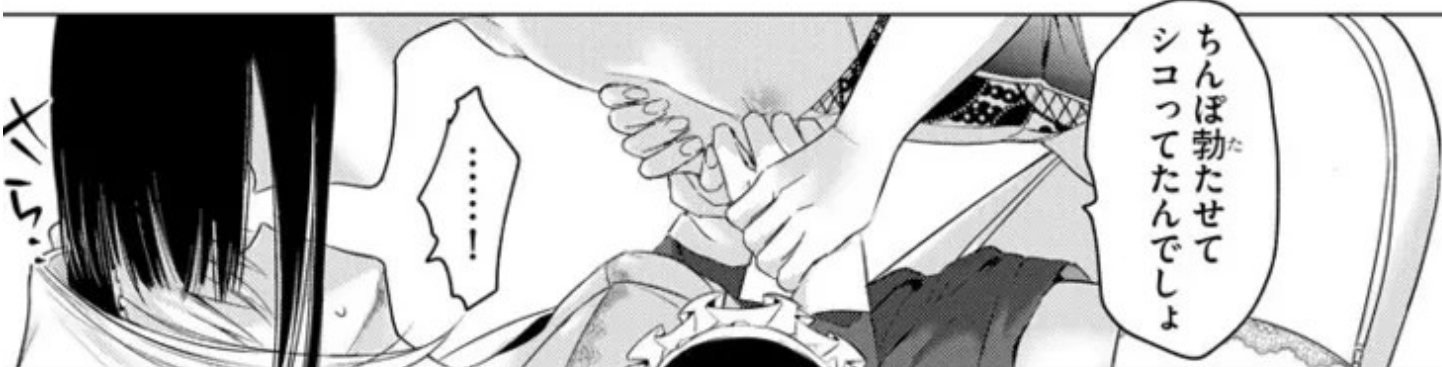
な何を言ってるの…!!

旦那様のはとっても
立派ですよ…♡



いつも
見てたんでしょ…

旦那様と
私のホモ交尾



ちんぽ^た勃たせて
シコってたんでしょ

……!!



うふふ
旦那様もよく
触りますのよ

ここは奥様とは
ちつとも
似てないのに

おかしい
ですわよね?

そ

た



あ蒼衣……っ

変よ……

蒼衣と……こんなこと



うふふ

変?

あなたの
お父様とは
いつもやっている
ことですわよ



お嬢様の先走りでお尻がふやけてしまいそう

気持ちいいんですのね?

いつも……ここに旦那様が入ってるんですよ

いや……けがらわしい……!





いかがかしらっ♡

自分の父親の
ちんぼケースに仕込まれたっ♡
オカマ野郎の
おまんこはあっ♡

お嬢様の貧弱な
モヤシちんぽには
ユルすぎるかしらあ♡

ぬるぬるで
ぎぢぎぢに
締めつけてくる
蒼衣の粘膜…っ
こ…こ…こ…
お父様が触れてたと
思うと…
けがらわしいのに…!

気持ちよく
なっちゃ
だめなの…っ♡

これがいいの？
これが好きなん
ですのね？

やっぱり親子ですわね♡
血は争えませんわ♡

最低…♡

実の親父が使い古した
中古ホモマンコでっ
おイキになって……♡♡♡

私たちはもう……
二度とあの頃には
戻れない

あ~~~~ららっ♡
あんなに軽蔑してた
オカマの尻に
種汁プチ撒け
ちゃった♡

清く美しいお嬢様も
これで穢れたホモの
仲間入りですわね♡

あの日には
帰れない

どうして
なんだらう……



蒼衣……

どうして
変わり果てて
しまったの



いつまでも
あの頃のままで

変わらずに
いてほしかっ……




……この黒い髪が
亡くなった
奥様に似てるって
旦那様は床でいつも
褒めてくださいますの

一度……目が合いましたわね

お嬢様覚えてる？

あの時のお嬢様の
きたないものを
見るような目

けして忘れない



僕はあなたに
助けてほしかったのに

僕
男の子じゃ
なくなっちゃったよ



私は



蒼衣をずっと
傷つけて
いたんだなあ



似てないわ
お母様とは
どこも

男の子よ



…お嬢様…？

ふい
ふい
ふい



順番に思い出して
私たちふたりのこと

過ぎ去ってしまっ
てもう戻らないけれど
確かにあったことよ



目を閉じて



あの扉の向こうには
何があるんでしょう



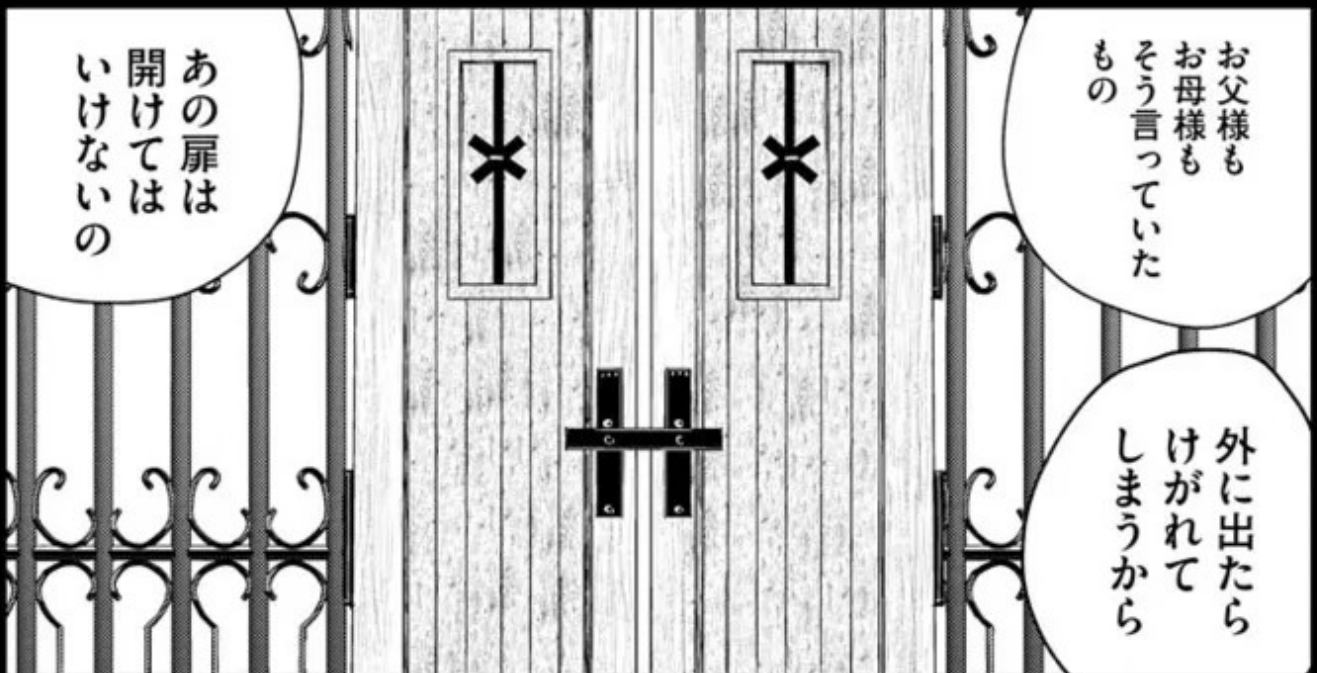
お嬢様



子供は
扉の外に出ては
いけないのよ



だめよ



あの扉は
開けては
いけないの

お父様も
お母様も
そう言っていた
もの

外に出たら
けがれて
しまうから



扉を
開けましょう



私が臆病で
けがれるのを
恐れてばかりで

大人になる勇気が
なかったから

あなたを…
ひとりにして
しまった



でも
だめだって…
旦那様が…

私が
子供だったから



ふたりで扉を開けて

この家を出て

大人になるの

お嬢様

あ

あ

あ

誰にも
止めさせは
しない



お父様にだって

私があなただを
守るから



今まで…何年も
守れなかったぶん



私が守るから…っ

たたとえ…
お父様と同じ
最低の大人に
なったって…っ



お嬢様…っ

違います

お嬢様は
旦那様とは
全然違います

たすけて……

男の子の
僕のこと……

お嬢様っ

お嬢様……♡

蒼衣……っ！









Fin